

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1	人と感染症	感染症の歴史を学ぶ。
2～8	感染症の法律と侵入経路	1類から5類、呼吸器侵入、消化器侵入、細菌、ウイルス学ぶ。
9～12	病原微生物	微生物の種類、おおきさ、構造を理解。
13～15	備瀬物の増殖と環境	細菌をウイルスの増殖について学ぶ。
16～17	病原性と感受性	毒素感染はつびょうについて学ぶ。
18～21	予防接種と感染症発生の要因	定期的予防接種と感染源、感染経路を理解する。
22～24	空気・飛沫を介しての感染症	結核・サーズ・マーズ・インフルエンザ等を理解する。
25～30	飲食物を介しての感染症	赤痢・O-157・A型肝炎を理解する。
31～32	血液を介しての感染症	B型肝炎、C型肝炎、エイズ等の理解する。
33～34	動物・節足動物を介しての感染症	ラッサ熱・ペスト・デング熱等の理解する。
35～37	消毒の原理と意義	殺菌・消毒・滅菌について学ぶ。
38～43	消毒法各論	理学的・科学的消毒の理解。
44～46	消毒法実習	各種消毒薬の濃度と希釈を理解。
47	衛生的取り扱い	施設・設備器具類のしょうどくについての理解
48～49	消毒の自主的管理体制	血液付着器具類の消毒についての理解
50～52	まとめ・国家試験対策	全般について学びなおす。

教育目標 ねらい (到達目標)	感染症について、的確な知識、技能を会得
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	感染症の具体例と消毒法についての実習
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人でできるようにする。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室において実習形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応	理容師国家試験受験資格	
関連科目	理容技術理論、理容総合技術	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発行 技術の解説 アリアーレビューティー専門学校 理容師実技試験マニュアル	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

理容師免許を有し理容所において勤務

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経歴の有無)</small>	高橋 秀典[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～4	3章 ヘアデザイン	ヘアデザインの基本的を考える。
5～8	4章 ヘアカット①	ヘアカットとは、シザー、レザーの使い方などを美容技術の重要事項として伝える。
9～12	ヘアカット②	美容刃物、カットの正しい姿勢を理論的に説明。
13～16	ヘアカット③	ブロッキング、ヘアカットの基礎理論は重要事項として伝える。
17～20	ヘアカット④	ベーシックなカット技法はバリエーションとして、シザー、レザーによるカット技法はサロンの現状含めて伝える。
21～24	9章 ネイル技術①	ネイル技術概論、ネイル技術の種類はサロンの現状含め伝える。爪の構造と機能は暗記させる。
25～28	ネイル技術②	爪のカット形状は暗記させる。ネイル技術と公衆衛生はサロンの現状含め伝える。
29～32	ネイル技術③	カウンセリングはサロンの現状含め伝える。ネイルケアの基本的知識を伝える。
33～36	ネイル技術④	アーティフィシャルネイルの基本的知識を伝える。手と足のマッサージは実演を絡めて覚えてもらう。
37～38	11章 日本髪①	日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴などを紹介。
39～40	日本髪②	日本髪と調和、装飾品、結髪道具などを実物を触りながら紹介。
41～42	日本髪③	結髪技術、日本髪の手入れを紹。かつらは実物を触りながら紹介する。
43～44	12章着付けの理論と技術①	着付の目的、礼装、着物と季節、着物の色々を説明。
45～46	着付けの理論と技術②	帯、小物、着物各部の名称は詳細までしっかり伝える。着物のたたみ方を紹介。
47～48	着付けの理論と技術③	着付の一般的要領、留袖、振袖の着付技術を手順的に説明。
49～50	着付けの理論と技術④	帯締め、帯揚げの結び方、男子礼装、羽織・袴の技術を手順的に説明。
51～52	着付けの理論と技術⑤	羽織の紐の結び方、女子袴着付け技術を手順的に説明。
53～54	着付けの理論と技術⑥	婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁は詳細までサロンの現状含め伝える。
55～60	技術理論 筆記試験対策授業	技術理論1・2のまとめと練習問題による総理解。

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。	
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。	
資格対応	美容師国家試験受験資格	
関連科目	美容実習、美容総合技術	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

授業計画表

教科名	美容総合理論【関係法規制度】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道徳の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、美容師法①	美容師法の目的と歴史、美容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	美容師法②	美容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	美容師法③	美容所（美容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	美容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	美容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、美容師法⑥	公衆衛生のあらまし、美容の業務と消毒の関係
21～22	美容師法⑦	美容所の環境衛生
23～24	美容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	美容師法の今後の課題（美容師法をめぐる論議、美容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	美容師法の復習（美容師法の難しさ、美容師法の内容）

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。美容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、美容に関する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

授業計画表

教科名	美容総合理論【運営管理】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	美容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	美容業と人事管理、美容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、美容業と料金
13～14	経営管理②	美容業と経理、美容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	美容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	美容ビジネスの将来	今後の美容業はどうなっていくのか

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト及び参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	実習教室にてモデル形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。	
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。	
資格対応	美容師国家試験受験資格、メイク3級検定資格、ネイル初級検定資格。	
関連科目	美容実習、美容総合技術	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論1・2 美容実習1・2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。
 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	実習教室にてモデル形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。	
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。	
資格対応	美容師国家試験受験資格、メイク3級検定資格、ネイル初級検定資格。	
関連科目	美容実習、美容総合技術	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論1・2 美容実習1・2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。
 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

名古屋市立中学校において理科を指導。

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	堀江忠史[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	古代エジプト	髪型/化粧/服装
3～5	古代ギリシャ・ローマ	髪型/化粧/服装/ギリシャの影響が濃厚なローマ
6～7	古代ゲルマン	服装
8～9	中世ヨーロッパ	男性・女性の髪型
10～11	中世ヨーロッパ	服装
12～13	近世1	髪型
14	近世1	化粧/女性の服装/髪型
15～16	近世2	髪型/化粧
17～18	近世3	髪型/化粧/服装
19～20	近代	髪型/化粧/服装
20～21	現代	髪型/化粧/服装
22～23	和装の礼装	花嫁の礼装
24～26	和装の礼装	女性の礼装/女性の準礼装/男性の礼装
27～28	洋装の礼装	男性の礼装
29, 30	洋装の礼装	女性の礼装

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ ④課題プリントの提出の有無
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。 指名された時に明快な発言をしてもらいます。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	
1～3	対外保護作用	皮膚が外力、紫外線、科学的刺激に対して保護を理解する。
4	体温調節作用	外気温が高いとき、低いときの保護を学ぶ。
5～7	分泌排泄作用	皮脂と発汗について理解する。
8	吸収作用	吸収がどのようにして行うか学ぶ。
9	再生作用	皮膚の損傷が治るのを学ぶ。
	第5章 皮膚と付属器官の保健	
10～12	皮膚と前進状態①②③	貧血、心臓病、肝臓膵臓の障害と皮膚を学ぶ。
13	皮膚と栄養④	栄養素が必要かを学ぶ。
14・15	皮膚の乾皮脂性ホルモンとの関係 ⑤⑥	乾皮・脂性の皮膚について学ぶ。
	第6章 皮膚と付属機関の疾患	
16	皮膚疾患の原因と治療法	皮膚疾患のアレルギーと感染について学ぶ。
17・18	湿疹、皮膚炎	かぶれの原因を理解する。
19・20	角化異常 分泌異常	ニキビや腋臭症を学ぶ。
21・22	化膿菌・ウィルス・真菌	トビヒ。ヘルペス、ミズムシを学ぶ。
23～25	衛生害虫・毛と爪・腫瘍	ヒゼン、脱毛症について学ぶ。
26～30	まとめ・国家試験対策	全般を学びなおす。

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について